

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年2月28日

事業所名 がまごおり・ふれあいの場

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		より適切な支援ができるよう、活動によりグループを分け、部屋もわけています。	
	2 職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>			短時間職員を多数配置し、必要な時間帯に手厚くなるよう人員を配置しています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		<input type="radio"/>	スケジュールに写真や絵カードを用いたり、タイムタイマーを使用したりして、本人にわかりやすい構造化、情報伝達への配慮を行っています。	事業所が2階にあり、エレベーターやスロープの設置もないため、体の不自由なお子さんやきょうだい児をお連れの方には職員が付き添うなど配慮することを心がけております。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<input type="radio"/>			
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		朝夕のカンファレンスで話を皆でしています。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>		外部機関からスタッフを招き、支援の適性を評価してもらうことを検討していきます。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		法人内研修や講演に参加し、職員会議で研修内容を共有しています。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		生活チェック表の記入を年3~4回行い、保護者と話し合い作成しています。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>		事業所独自のアセスメントツール(生活チェック表)を利用しています。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	<input type="radio"/>		どの職員でも支援計画の内容が確認できるようファイリングに工夫している。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	<input type="radio"/>			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	<input type="radio"/>			
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<input type="radio"/>			
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	<input type="radio"/>		朝の打ち合わせで日案担当者を中心に活動のねらいや流れ、役割等を確認しています。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<input type="radio"/>		打ち合わせに出られない職員は、記録に残していく、他の職員に伝えていくなどして情報を共有するように努めています。	振り返りの時に次にどう展開をしていくのがいいかも意見をもらっています。また、ヒヤリハット等についても情報共有と改善策を検討しています。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<input type="radio"/>			
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>		定期的なモニタリングだけでなく、日々の中で様子の変化等保護者と話題にしています。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	<input type="radio"/>			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	<input type="radio"/>		保健センター、市役所、蒲郡市児童発達支援センター、豊橋あゆみ学園、蒲郡市民病院等と連絡をとり、連携をとっています	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	<input type="radio"/>			今の利用者の中には医療的ケアが必要な方はみえませんが、利用がある時には必要な機関と連絡をとりあい、支援を行います。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	<input type="radio"/>			今の利用者の中には医療的ケアが必要な方はみえませんが、利用がある時には必要な機関と連絡をとりあい、支援を行います。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	<input type="radio"/>		引き継ぎ書を活用し情報提供を行っています。また、保育園に移動後や保育園と併用の場合は、訪問療育などを利用し情報交換と相談に乗っています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	<input type="radio"/>		保護者に確認の上、市教委の相談員や学校の担当者と連絡をとり、連携しています。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	<input type="radio"/>			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	<input type="radio"/>		年少児以上の年齢のお子さんについては、希望があれば保育園にて交流保育を行っています。	交流保育の対象年齢でないお子さんに関しては、園庭開放などをお知らせしています。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	<input type="radio"/>			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	<input type="radio"/>			
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	<input type="radio"/>		利用児を3グループに分け、ペアレントトレーニング研修を実施しました。	参加できなかった保護者の方にはビデオ研修を行いました。未実施のグループもあるので、多くの方が参加できるよう機会を増やすことを検討していきます。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	<input type="radio"/>			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	<input type="radio"/>			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	<input type="radio"/>			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	<input type="radio"/>		月1回の「しゃべるまい」という保護者座談会を実施したり、年2回程度OBの話聞く機会を実施しています。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	<input type="radio"/>			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	<input type="radio"/>			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	<input type="radio"/>			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	<input type="radio"/>			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	<input type="radio"/>		利用児親子の作品展に、関係機関や親子の家族を誘っています。	事業所の所在地が住宅地ではないため、地域住民を招待する行事などは難しいが、事業所フェアに参加したり、見学を受け入れたりして、事業所の周知に努めています。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○		緊急時対応マニュアル等を作成し、保護者の方にもわかりやすいように室内に置きます。感染症マニュアルは現在作成中です。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難訓練を定期的に実施しています。	避難先や避難経路を記載したものを室内に掲示します。緊急時対応マニュアルを作成し、保護者の方にもわかりやすいように室内に置きます。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	現在、対象となるお子さんはいません。	弁当持参であることや保護者が同伴しているため、その都度確認しながら対応しています。医師の指示書を持ってきたお子さんがいた時には、それに基づき対応します。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○	身体拘束はしていません。	やむを得ず身体拘束を行う必要がある時には、具体的にどのような場合にどうするのかを事業所内で決めて、書面しておく必要があると思っています。

—